

核のごみ処分問題における対話の可能性 —処分場の調査地域住民の声から共に考える—

私たちのエネルギー源をどう賄うかというエネルギー政策は喫緊の課題であり続けています。その中で、原発政策における核ごみ処分政策を規定する最終処分法は、選定プロセスに住民参加や熟議機会が保障されていません。核ごみ処分地の文献調査は、住民の反発や分断が起こりやすい構造になっていますが、調査に応募した自治体だけの問題として見過ごされています。しかし本来、世代間倫理、都市と地域間の倫理、地層処分方法へのリスク認識など多面的なアプローチが必要であり、全国での社会的対話が求められています。

核ゴミ調査をめぐる問題現場となった地域の声をしきり上げ、プロセスの透明化や情報公開、公正な対話による合意形成の仕組みの導入など、よりよい政策にむけて、みなさんに対話できれば幸いです。

■ 出演 :

高野聡さん*基調講演



2022 年から原子力資料情報室で活動を開始し、主に核のごみ問題を担当している。同年 4 月から経済産業省の審議会である特定放射性廃棄物小委員会の委員も務める。また 2010 年から韓国に 11 年間滞在し、脱原発運動に参加、大学院にも進学した。ソウル大学環境大学院博士課程修了。

三木信香さん



「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」共同代表。2012 年から寿都に在住。夫婦で美容室を経営。現在 14 歳の娘と 3 人家族。

川崎彩子さん



25 年 4 月より原子力資料情報室のスタッフ。気候正義（気候変動による影響の公平性）を軸に、Fridays For Future や若者気候訴訟でも活動するアクティビスト。北海道伊達市出身。

石丸初美さん



佐賀県佐賀市在住。2006 年、玄海で日本初のプルサーマルが始まる動きを知り佐賀市で始まった運動に参加。2010 年 8 月 9 日には核燃料である MOX 燃料の使用差し止めの裁判を開始した。「玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会」および「核ゴミお断り！10 万年先の子どもを守る九州の会」で活動している。

■ 日時 : 2025 年 6 月 25 日 (水) 13 : 30 ~ 16 : 00 ※受付時間 13 : 15 ~

■ 会場 : オンライン開催

※Zoom を使用します。参加方法の詳細は、お申込みくださった方に開催前日までにメールいたします。聞くだけの参加も可能ですが、この対話の場を一緒につくれるよう、お声を出していただけたら幸いです。参加者さまのお顔は写らないよう初めはこちらで設定しますが、ご発言の際は自主的に顔を写していただけます。

■ 参加費 : 無料 ※先着 50 名様。申込の締め切りは 25 年 6 月 23 日または定員に達した時点の早い方。

■ 主催 : NPO 法人まちぼと ソーシャル・ジャスティス基金 <https://socialjustice.jp/> メール info@socialjustice.jp

■ お申込みページ : <https://socialjustice.jp/20250625.html> ※事前のお申し込みが必要です。